パート Cセクション5の各指標の概説では、ガイドライン2002年版にあるような側面と指標の構成に至った理由を、簡単に記述している。

GRIの考えにおいては、指標は定量的でも定性的でもありうるということに留意されたい。定量的、つまり数値的尺度は多くのメリットをもたらすが、特定の事例についてのパフォーマンス測定では、不確かで不完全、あるいは曖昧なものとなることがある。GRI は、文章的表現を要求することとなる定性的指標を、組織の経済・環境・社会的パフォーマンスの全体像を示す上で補完的かつ不可欠なものと考えている。

きわめて複雑な経済・社会的システムを扱う場合には、定性的指標を用いるのが最も適切であろう。そうした複雑なシステムでは、経済・環境・社会的状況に対して、報告組織がプラスあるいはマイナスに寄与していることを測るための定量的指標を特定することができないからである。定性的なアプローチはまた、その組織の活動が多くの原因のうちの一つであるような影響の測定においても適切なものである。定性的なパフォーマンス指標については、一般的な記述による表明方法には反するが、尺度に従って表すような対応を奨励するような記述となっている(付属文書5参照)。逆説的であるが、このことが逆に報告組織間の比較を容易にする。

©2002 GRI